

『ぼくの中の新しい鎌倉へ』

柳澤大夏

机の上に置いてある金色の鎌倉の大仏様の像、見る度ぼくは背筋が伸びるような気持ちになる。コロナが流行る前は家族で毎週いろいろ出かけた。江の電で一駅ずつ降りて観光したこともある。それなのに急にコロナでどこも行かなくなり、学校も休校、バスケの大会も中止でマスクの生活が始まった。イライラし始めたある日、お母さんが大仏様に手を合わせに行こうと言って人ごみをさけ早朝に鎌倉に向かった。高德院に入ってすぐ見た大仏様はコロナ前と変わらない顔で青空の下に座っていた。何だか感動したぼくは、珍しく自分のおこづかいで仏像を自分用に買った。当たり前前に日常や休日を楽しめるのは実はすごいことだとその日ぼくは学んだ気がする。

最近は新しい生活様式でお店も開いて散さくもできぼくも江の電で鎌倉に来るようになった。でも前より1つ1つ大切に観光し、景色や食べ物やお店の人との話などを楽しめる

ようになったような気がしている。

(*) タイトルが欄外に書いてあり、本文は20行で書かれています。したがって1行あふれました。